

medicinal herb, has potent antiaggregation effects on Alzheimer's beta-amyloid proteins. *J Neurosci Res.* 84 : 427-433. 2006

4) 荒井啓行、工藤幸司： 認知症診断に役立つ補助検査法—生物学的診断マーカーと脳分子イメージング. *Cognition and Dementia.* 5 : 101-105. 2006

5) 工藤幸司：PET によるアミロイドイメージング. *Medical Practice.* 23:1183-1184. 2006

6) 工藤幸司、荒井啓行： 脳アミロイドの分子イメージング. *Neurological Science.* 14: 8-9. 2006

7) 岡村信行、谷内一彦、古本祥三、工藤幸司、荒井啓行： 脳内アミロイドβ蛋白およびタウ蛋白の PET イメージング技術の開発. *Innervation.* 21:43. 2006

8) 工藤 幸司：軽度認知障害—アルツハイマー型認知症の初期、その前駆状態を中心に 「今後の画像診断」. *Modern Physician.* 26: 1835- 1838. 2006

9) 岡村信行、古本祥三、工藤幸司、谷内一彦： 臨床応用脳の分子イメージング「アルツハイマー病」. *日本臨床.* 65. 320-326. 2007

10) 工藤幸司：分子イメージング. *In”老年期認知症ナビゲーター”* (監修 平井俊策) *メディカルビュー社.* 248-249. 東京. 2006

## 2. 学会発表

1) Okamura N, Furumoto S, Ito S, Fujikawa Y, Tashiro M, Funaki Y, Akatsu H, Yamamoto T, Iwata R, Arai H, Yanai K, Kudo Y: <sup>18</sup>F-labeled ethenyl-benzoxazole derivatives for in vivo detection of amyloid plaques in the brain. The 10<sup>th</sup> International Conference on Alzheimer's and Related Disorders. (Madrid, Spain) July 15-20. 2006.

2) Arai H, Okamura N, Furukawa K, Maruyama M, Furumoto S, Narita T, Ito M, Iwata R, Yanai K, Kudo Y: [<sup>11</sup>C]-BF-227 and PET to visualize amyloid in Alzheimer's disease. The 10<sup>th</sup> International Conference on Alzheimer's and Related Disorders. (Madrid, Spain) July 15-20, 2006.

3) Okamura N, Furumoto S, Tashiro M, Funaki Y, Ishikawa Y, Furukawa K, Arai H, Sawada T, Ito M, Iwata R, Yanai K, Kudo Y: Novel benzoxazole

derivatives for in vivo imaging of amyloid plaques in the brain. The 5<sup>th</sup> Annual Meeting of the Society for Molecular Imaging (Hawaii) Aug 30-Sep 2. 2006

4) Fujiwara H, Iwasaki K, Furukawa K, Seki T, Kudo Y, Ohizumi Y, Arai H: Uncaria rhynchophylla, a Chinese medicinal herb, has potent antiaggregation effects on Alzheimer's beta-amyloid proteins. The 10<sup>th</sup> International Conference on Alzheimer's and Related Disorders. (Madrid, Spain) July 15-20. 2006.

5) 古本祥三、岡村信行、田代学、船木義仁、石川洋一、古川勝敏、伊藤正敏、岩田錬、谷内一彦、荒井啓行、工藤幸司： 新規アミロイドイメージング剤 [<sup>11</sup>C]BF227 の臨床評価. 第 46 回日本核医学会学術総会(鹿児島). 11 月 9 日-11 日. 2006 年

6) Okamura N, Kudo Y, Furumoto S, Furukawa K, Tashiro M, Kato M, Ito S, Funaki Y, Akatsu H, Sawada T, Yanai K, Arai H: In vivo imaging of amyloid plaques in the brain in [<sup>11</sup>C]BF-227 PET study. 第 25 回日本認知症学会学術集会(広島). 10 月 6 日-7 日. 2006 年.

7) 藤川陽介、岡村信行、古本祥三、星井嘉信、石原得博、山田正仁、工藤幸司、谷内一彦： Amyloidosis 特有の病理像を認識する PET プロープの開発. 第 57 回 日本薬理学会北部会(弘前). 9 月 14 日-15 日. 2006 年

8) 伊藤啓、岡村信行、加藤元久、古本祥三、赤津裕康、山本孝之、稲田義行、荒井啓行、工藤幸司、谷内一彦： アルツハイマー病のアミロイドを検出する新規 PET プロープ. 第 57 回日本薬理学会北部会(弘前). 9 月 14 日-15 日. 2006 年

9) 岡村信行、古本祥三、田代学、加藤元久、伊藤啓、稲田義行、古川勝敏、荒井啓行、岩田錬、工藤幸司、谷内一彦： アミロイド画像化用プロープ [<sup>11</sup>C]BF-227 の臨床評価. 第 57 回 日本薬理学会北部会(弘前). 9 月 14 日-15 日. 2006 年

10) 工藤幸司：アルツハイマー病の診断用プロープ. 日本薬学会第 126 年会「アイソトープ放射線薬学研究会懇話会・アイソトープ放射線薬学研究会」(仙台). 3 月 28 日. 2006 年

11) 古本 祥三、岡村信行、石川洋一、船木義仁、加藤元久、田代学、澤田徹、伊藤正敏、谷内一彦、岩田錬、荒井啓行、工藤幸司： 老人斑画像

化プローブ<sup>[11C]</sup>BF-227 の合成と評価. 日本薬学会第 126 年会 (仙台) . 3 月 28 日. 2006 年

12) 岡村信行、谷内一彦、工藤幸司： アミロイド イメージング用 PET プローブの開発とその臨床応用. 第 79 回日本薬理学会年会(横浜). 3 月 10 日. 2006 年

13) 藤川陽介、岡村信行、古本祥三、星井嘉信、山田正仁、石原得博、工藤幸司、谷内一彦： A β リガンド BF-227 によるアミロイドーシスの検出. 第 79 回日本薬理学会年会(横浜). 3 月 8 日. 2006 年

14) 伊藤啓、岡村信行、加藤元久、古本祥三、赤津裕康、山本孝之、澤田徹、荒井啓行、工藤幸司 谷内一彦： アルツハイマー病のタウイメージング用新規 PET プローブ. 第 79 回日本薬理学会年会 (横浜) .3 月 8 日. 2006 年

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

下記参照

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

	出願番号	発明の名称	出願日	出願人	発明者
1	特願 2005-347818	コンフォメーション病診断および治療用の長波長蛍光物質を含む組成物	平成 17 年 12 月 1 日	東北大学	工藤幸司 ら
	PCT/JP2006/323962		平成 18 年 11 月 30 日		
2	特願 2005-371821	コンフォメーション病の診断用プローブ	平成 17 年 12 月 26 日	東北大学	工藤幸司 ら
	PCT/JP2006/325804		平成 18 年 12 月 25 日		

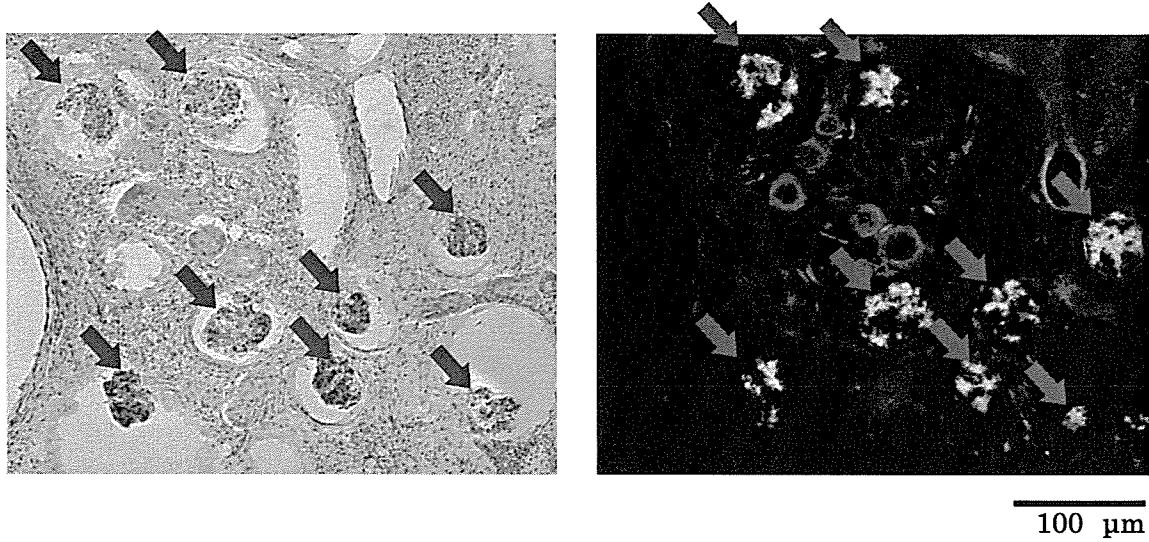


図 1.アミロイドーシス A モデルマウス腎臓標本における BF-227 および坑アミロイド A 抗体による染色像 (赤矢印はアミロイドを示す)

左：坑アミロイド A 抗体染色像

右：左の隣接切片における BF-227 染色像

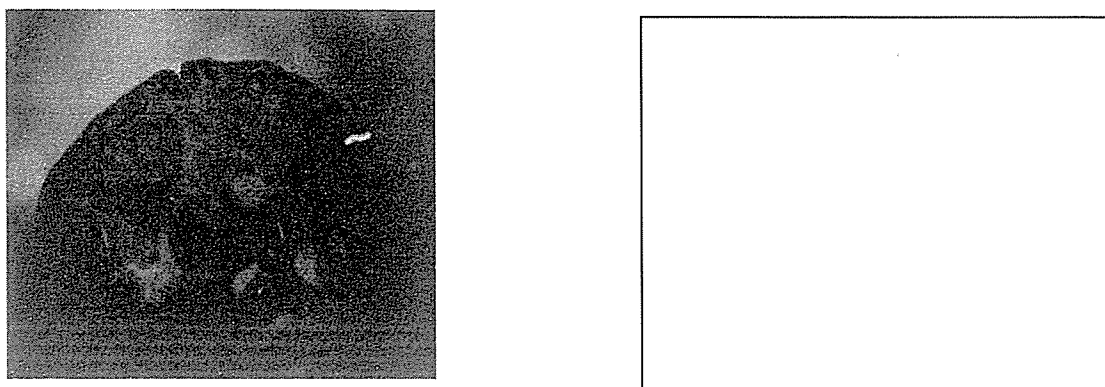


図 2. コントロールマウスから摘出した脾臓における $[^{11}\text{C}]\text{BF-227}$  オートラジオグラフィとコンゴレッド染色像  
左：コンゴ レッド染色（偏光顕微鏡下）  
右： $[^{11}\text{C}]\text{BF-227}$  オートラジオグラフィ

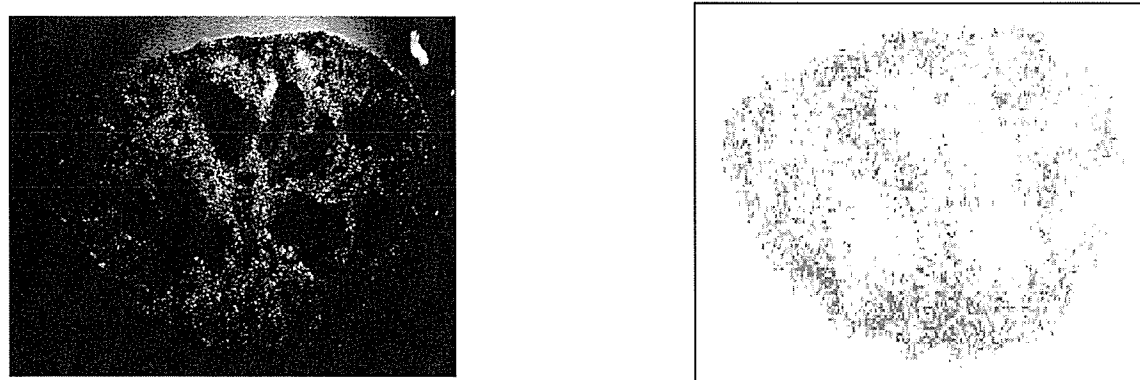


図 3. アミロイドーシスモデルマウスから摘出した脾臓における $[^{11}\text{C}]\text{BF-227}$  オートラジオグラフィとコンゴレッド染色像  
左：コンゴ レッド染色（偏光顕微鏡下）  
右： $[^{11}\text{C}]\text{BF-227}$  オートラジオグラフィ

### [III] 研究報告会、分科会プログラム

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業

アミロイドーシスに関する調査研究班

— AA 分科会プログラム —

2006年9月16日（土）13：00～16：00

大阪大学保健センター（吹田キャンパス）

AA アミロイドーシスのトシリズマブによる臨床試験の発足に関して  
議事

1. 挨拶：山田正仁 班長
2. AA 分科会発足についての経過説明
3. 討議内容
  - 1). 組織体制と役割
  - 2). 研究協力者参画の検討
  - 3). 目標（TNF- $\alpha$ との差別化有無）の設定
  - 4). プロトコールについての検討
  - 5). その他
4. 次回日程について

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業

アミロイドーシスに関する調査研究班

— 第2回 AA 分科会プログラム —

2006年12月23日（土）13：00～17：00



## 議事

1. 挨拶：山田正仁 班長
2. 自己紹介
3. 経過説明：山田正仁 班長
4. 議題
  - 1). プロトコールについての検討
  - 2). 組織構成と役割
  - 3). その他
5. 次回日程について

進行役 吉崎和幸

厚生労働省 難治性疾患克服研究事業  
アミロイドーシスに関する調査研究班  
アミロイドーシスの画期的診断・治療法に関する研究班

平成 18 年度 合同研究報告会  
プログラム

日 時：平成 19 年 2 月 8 日（木） 9：30－16：45  
2 月 9 日（金） 9：00－16：45

場 所：KKR ホテル東京 11 階 孔雀の間  
東京都千代田区大手町 1-4-1  
TEL 03-3287-2921（代表）

アミロイドーシスに関する調査研究班

主任研究者 山田 正仁

事務局：金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科）

〒920-8640 石川県金沢市宝町 13-1

TEL: 076-265-2293, FAX: 076-234-4253

E-mail: amyloid@med.kanazawa-u.ac.jp

アミロイドーシスの画期的診断・治療法に関する研究班

主任研究者 池田 修一

事務局：信州大学医学部内科学（脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）

〒390-8621 松本市旭 3-1-1

TEL 0263-37-2673, FAX 0263-37-3427

E-mail: amyloid@hsp.md.shinshu-u.ac.jp

## 連絡事項

- ・ 発表時間は1 演題につき発表 10 分， 討論 5 分です（時間厳守）。
- ・ ○印は演者です（演者は分担研究者の先生でもなくても結構です）。
- ・ 太字は発表演題を中心となって推進した分担研究者です。
- ・ 発表は全て、Power Point ファイルを Windows PC プロジェクターで投影して行います。
- ・ 分担研究者会議

アミロイドーシスに関する調査研究：2月8日（木）昼食時

アミロイドーシスの画期的診断・治療法に関する研究：2月9日（金）昼食時

各班の分担研究者の先生方は「11階鳳凰の間」にお集まり下さい。

- ・ 意見交換会

日時：2月8日（木）17:30~

場所：KKR ホテル東京 11階 白鳥の間

会費：5,000円

2月8日(木)

アミロイドーシスに関する調査研究班 研究報告会

9:30 挨拶 厚生労働省健康局疾病対策課

9:35 挨拶 主任研究者 山田 正仁

I. アミロイドーシスの疫学 (9:45~10:00) 座長 山田 正仁

1. 臨床調査個人票に基づくアミロイドーシスの疫学 9:45  
山田正仁、○本崎裕子<sup>もとざきゆうこ</sup>、小野賢二郎  
金沢大学大学院医学系研究科脳老化・神経病態学(神経内科学)

II. AL アミロイドーシス (10:00~10:45) Part 1 座長 池田 修一

2. AL アミロイドーシスに対する治療法の基礎的研究 10:00  
—単クローン性形質細胞の恒常的NF-κB活性とその定量化—  
○河野道生<sup>かわのみちお</sup>、大津山賢一郎、Jakia Amin  
山口大学大学院医学系研究科・細胞シグナル解析学
3. アミロイドーシスにともなう Bence Jones Protein の解析 10:15  
今井裕一、○山田晴生<sup>やまだはるたか</sup>、水野奈津子、若松 亮、青山龍平、山口 諭、三浦直人  
北川 渡、西川和裕、三竿幸子  
愛知医科大学 腎臓・膠原病内科
4. 呼吸器系を侵すアミロイドーシスの臨床像の多様性について 10:30  
○池田修一<sup>いけだしゅういち</sup>1)、藤本圭作<sup>ふじもとけいさく</sup>2)、星井嘉信<sup>ほしせいよしのぶ</sup>3)  
信州大学医学部内科(脳神経内科、リウマチ・膠原病内科)<sup>1)</sup>、信州大学医学部内科(呼吸器内科)<sup>2)</sup>、山口大学医学部第一病理<sup>3)</sup>

III. AL アミロイドーシス (10:45~11:30) Part 2 座長 島崎 千尋

5. 原発性アミロイドーシスに対する中等量メルファランによる寛解導入療法と自家末梢血幹細胞移植療法:臨床試験の進捗状況 10:45  
○島崎千尋<sup>しまざきちひろ</sup>1)、麻奥英毅<sup>あさおくひでき</sup>2)、安倍正博<sup>あべせいひろ</sup>3)、松田正之<sup>まつだまさゆき</sup>4)、鈴木憲史<sup>すずきけんし</sup>5)、畑 裕之<sup>はた ひろゆき</sup>6)、山田正仁<sup>やまだせいじん</sup>7)  
京都府立医科大学血液・腫瘍内科<sup>1)</sup>、広島赤十字原爆病院血液内科<sup>2)</sup>、徳島大学血液内科<sup>3)</sup>、信州大学神経内科・リウマチ膠原病内科<sup>4)</sup>、日本赤十字医療センター血液内科<sup>5)</sup>、熊本大学血液内科<sup>6)</sup>、金沢大学神経内科<sup>7)</sup>
6. 心アミロイドーシス患者の自家造血幹細胞移植後経過 11:00  
○麻奥英毅<sup>あさおくひでき</sup>1)、片山雄太<sup>かたやまゆうた</sup>2)、名越久朗<sup>なごしひさひさ</sup>2)、太田逸朗<sup>おおたひしろう</sup>2)、湯浅博美<sup>たゆあしひろみ</sup>2)  
広島赤十字・原爆病院・検査部<sup>1)</sup>、広島赤十字・原爆病院・第四内科<sup>2)</sup>

7. 自己末梢血幹細胞移植併用メルファラン大量療法を行った原発性ALアミロイドーシス4例の成績 11:15

高市憲明、○香取秀幸<sup>かとりひでゆき</sup>、星野純一  
虎の門病院腎センター

#### IV. FAP (11:30~12:30)

座長 安東 由喜雄

8. トランスジェニックラット (ヒト ATTR V30M) の開発—ATTR 代謝動態解析の新たなツールとして— 11:30

安東由喜雄<sup>1)</sup>、○植田光晴<sup>うへだみつはる</sup><sup>2)</sup>、中村政明<sup>3)</sup>、山下太郎<sup>2)</sup>、大林光念<sup>1)</sup>、姫野真悟<sup>1)</sup>、三隅洋平<sup>2)</sup>、神力 悟<sup>4)</sup>、袴田陽二<sup>5)</sup>、内野 誠<sup>2)</sup>、小林英司<sup>5)</sup>  
熊本大学大学院医学薬学研究部 病態情報解析学<sup>1)</sup>、同 神経内科学<sup>2)</sup>、同 歯科口腔外科学<sup>4)</sup>、国立水俣病総合研究センター<sup>3)</sup>、自治医科大学 臓器置換研究部<sup>5)</sup>

9. Val30Met TTR 型 FAP 患者における腹壁アミロイドの正常型：変異型 TTR の年代別比率 11:45

池田修一、○土屋彩子<sup>つちやあやこ</sup>、矢崎正英、武井洋一、関島良樹  
信州大学医学部内科 (脳神経内科、リウマチ・膠原病内科)

10. 新たな変異トランスサイレチン (Val71Ala および Val94Gly) FAP 症例の臨床的検討 12:00

中里雅光<sup>1)</sup>、○塩見一剛<sup>しおみかずたか</sup><sup>1)</sup>、伊達 紫<sup>2)</sup>、宗像真希<sup>3)</sup>、塚本 忠<sup>4)</sup>、村田美穂<sup>4)</sup>、小川雅文<sup>4)</sup>、小池春樹<sup>5)</sup>、祖父江元<sup>5)</sup>、向井栄一郎<sup>6)</sup>  
宮崎大学医学部神経呼吸内分泌代謝学<sup>1)</sup>、宮崎大学フロンティア科学実験総合センター・生理活性物質探索分野<sup>2)</sup>、国立精神・神経センター 国府台病院神経内科<sup>3)</sup>、国立精神・神経センター 武蔵病院神経内科<sup>4)</sup>、名古屋大学神経内科<sup>5)</sup>、国立名古屋医療センター<sup>6)</sup>

11. トランスサイレチン型遺伝性脳アミロイドアンギオパチー患者に対する肝臓移植の効果 12:15

安東由喜雄<sup>1)</sup>、○山下太郎<sup>やましたたろう</sup><sup>2)</sup>、植田光晴<sup>2)</sup>、岡本定久<sup>2)</sup>、Manuel Zeledon Ramires<sup>1)</sup>、三隅洋平<sup>2)</sup>、中村政明<sup>1)</sup>、内野 誠<sup>2)</sup>  
熊本大学大学院医学薬学研究部病態情報解析学分野<sup>1)</sup>、熊本大学大学院医学薬学研究部神経内科学分野<sup>2)</sup>

12:30~13:30 昼 食  
アミロイドーシスに関する調査研究 分担研究者会議  
(11階 鳳凰の間)

## V. 脳アミロイドーシス (13:30~14:30) Part 1 座長 東海林 幹夫

12. NSAIDs の  $\beta$  アミロイド蛋白凝集抑制・不安定化作用と抗アミロイド効果の分子機構解明 13:30  
山田正仁<sup>1)</sup>、○廣畑美枝<sup>1)、2)</sup>、小野賢二郎<sup>1)</sup>、長谷川一浩<sup>2)</sup>、内木宏延<sup>2)</sup>、安原(堤)しのぶ<sup>2)</sup>、大越忠和<sup>2)</sup>、大橋祐美子<sup>2)</sup>  
金沢大学大学院脳老化・神経病態学(神経内科)<sup>1)</sup>、福井大学医学部病因病態医学講座・分子病理学領域<sup>2)</sup>
13. 複数の ER ストレスに対する Presenilin-1、Aph-1 の量的変化の検討 13:45  
水澤英洋、○三條伸夫<sup>さんじょうのぶお</sup>、金海峰  
東京医科歯科大学大学院脳神経病態学(神経内科学)
14. 胆汁への血液 A $\beta$  クリアランス経路の検討 14:00  
東海林幹夫<sup>1)</sup>、瓦林毅<sup>1)</sup>、○松原悦朗<sup>まつばらえつろう</sup><sup>2)</sup>  
弘前大学医学部脳研・神経統御部門<sup>1)</sup>、国立長寿医療センター研究所・アルツハイマー病研究部<sup>2)</sup>
15. 遺伝性アルツハイマー病における脳内 A $\beta$  アミロイド沈着へのトランスサイレチン及び血清アミロイド P 成分の関与に関する研究 14:15  
前田秀一郎<sup>1)</sup>、○Henny Wati<sup>1)</sup>、河西あゆみ<sup>2)</sup>、平澤孝枝<sup>3)</sup>、久保田健夫<sup>3)</sup>、瓦林毅<sup>4)</sup>、松原悦朗<sup>5)</sup>、東海林幹夫<sup>6)</sup>、河野裕夫<sup>7)</sup>、石原得博<sup>7)</sup>  
山梨大学大学院医学工学総合研究部生化学<sup>1)</sup>、分子情報伝達学<sup>2)</sup>、環境遺伝医学<sup>3)</sup>、岡山大学大学院医歯学総合研究科神経病態内科<sup>4)</sup>、国立長寿医療センター研アルツハイマー病研究部<sup>5)</sup>、弘前大学医学部神経内科<sup>6)</sup>、山口大学医学部構造制御病態学<sup>7)</sup>

## VI. 脳アミロイドーシス (14:30~15:15) Part 2 座長 葛原 茂樹

16. スタチン服用群における髄液 A $\beta$  分子種の検討 14:30  
○玉岡晃<sup>たまおか あきら</sup>、原田祐嗣、石井一弘  
筑波大学大学院人間総合科学研究科病態制御医学専攻神経病態医学分野(臨床医学系神経内科)
17. Familial Danish Dementia(家族性デンマーク型認知症)：典型的老人斑を欠いた ADan 及び A $\beta$  の共沈着 14:45  
玉岡晃<sup>1)</sup>、○富所康志<sup>とみどころやすし</sup><sup>1)</sup>、Blas Frangione<sup>2)</sup>、Jorge Ghiso<sup>2)</sup>  
筑波大学大学院人間総合科学研究科病態制御医学専攻神経病態医学分野(臨床医学系神経内科)<sup>1)</sup>、Department of Pathology, New York University School of Medicine<sup>2)</sup>
18. 高齢者の cerebral microbleeds : cerebral amyloid angiopathy の MRI 画像診断に関する検討 15:00  
葛原茂樹<sup>1)</sup>、○伊藤伸朗<sup>いとうのぶお</sup><sup>2)</sup>、前田正幸<sup>3)</sup>  
三重大学大学院医学研究科生命科学専攻神経病態内科学分野<sup>1)</sup>、三重大学医学部附属病院神経内科<sup>2)</sup>、三重大学大学院医学研究科病態制御医学講座非侵襲的診断治療分野(放射線科)<sup>3)</sup>

VII. AA アミロイドーシス (15:30~16:45)

座長 吉崎 和幸

19. AA アミロイドーシスモデル動物におけるフェノフィブラートの治療効果 15:30  
中里雅光<sup>1)</sup>、○伊達<sup>だて</sup>紫<sup>ゆかり</sup><sup>2)</sup>  
宮崎大学医学部神経呼吸内分泌代謝学<sup>1)</sup>、宮崎大学フロンティア科学実験総合センター・生理活性物質探索分野<sup>2)</sup>
20. 合成ペプチドを利用した新規抗 SAA 抗体の開発、諸種 AA アミロイドーシスの検討および免疫療法に関する研究 15:45  
石原得博、○星井<sup>ほしい</sup>嘉信<sup>よしのぶ</sup>、崔 丹、河野裕夫  
山口大学大学院医学系研究科情報解析医学系学域病理形態分野 (病理学第一講座)
21. SPR 法による SAA 結合様式研究の基礎検討 16:00  
○山田<sup>やまだ</sup>俊幸<sup>としゆき</sup>、佐藤純司  
自治医科大学臨床検査医学
22. AA アミロイドーシス合併関節リウマチに対する抗サイトカイン療法の有用性の評価—SAA 抑制効果を中心に— 16:15  
○奥田<sup>おく</sup>恭章<sup>だやすあき</sup><sup>1)</sup>、山田俊幸<sup>2)</sup>  
道後温泉病院リウマチセンター内科<sup>1)</sup>、自治医科大学臨床検査医学<sup>2)</sup>
23. AA アミロイドーシスのトシリズマブによる治療研究 1. AA 分科会の発足と治療プロトコール作成 16:30  
○吉崎<sup>よし</sup>和幸<sup>さきかずゆき</sup><sup>1)</sup>、山田正仁<sup>2)</sup>、池田修一<sup>3)</sup>、石原得博<sup>4)</sup>、今井裕一<sup>5)</sup>、奥田恭章<sup>6)</sup>、工藤幸司<sup>7)</sup>、下条文武<sup>8)</sup>、高市憲明<sup>9)</sup>、中里雅光<sup>10)</sup>、山田俊幸<sup>11)</sup>  
大阪大学保健センター<sup>1)</sup>、金沢大学大学院脳老化・神経病態学 (神経内科学)<sup>2)</sup>、信州大学医学部内科学第三 神経内科・リウマチ膠原病内科<sup>3)</sup>、山口大学医学部医学科構造制御病態学講座<sup>4)</sup>、愛知医科大学医学部内科学講座 腎臓・膠原病内科<sup>5)</sup>、医療法人千寿会道後温泉病院 内科 (リウマチ科)<sup>6)</sup>、東北大学先進医工学研究機構 高度情報通信分野<sup>7)</sup>、新潟大学医歯学総合病院 (第二内科) 腎臓内科学<sup>8)</sup>、虎ノ門病院 腎センター内科・腎臓病<sup>9)</sup>、宮崎大学医学部 第三内科<sup>10)</sup>、自治医科大学 臨床検査医学<sup>11)</sup>

2月9日(金)

**VIII. 透析アミロイドーシス (9:00~10:00) 座長 下条 文武**

24. リゾリン脂質の $\beta$ 2-ミクログロブリンアミロイド線維形成促進効果と透析患者における血清リゾリン脂質濃度の解析 9:00  
内木宏延<sup>1)</sup>、○大越忠和<sup>1)</sup>、長谷川一浩<sup>1)</sup>、大橋祐美子<sup>1)</sup>、木村秀樹<sup>2)</sup>、高橋直生<sup>2)</sup>、吉田治義<sup>2)</sup>  
福井大学医学部医学科 病因病態医学講座・分子病理学領域<sup>1)</sup>、福井大学医学部医学科 病態制御医学講座・腎臓病態内科学領域<sup>2)</sup>
25.  $\beta_2$ -microglobulin の transgenic マウスの作成とアミロイド沈着の解析 9:15  
樋口京一<sup>1)</sup>、○付笑影<sup>1)</sup>、葛鳳霞<sup>1)</sup>、張倍茹<sup>1)</sup>、銭金澤<sup>1)</sup>、澤下仁子<sup>1)</sup>、森政之<sup>1)</sup>、内木宏延<sup>2)</sup>  
信州大学大学院 医学研究科 加齢生物学分野<sup>1)</sup>、福井大学医学部医学科 病因病態医学講座・分子病理学領域<sup>2)</sup>
26. 長期透析患者における透析アミロイドーシスの臨床病態 9:30  
下条文武<sup>1)</sup>、○山本卓<sup>1)</sup>、風間順一郎<sup>2)</sup>、西慎一<sup>3)</sup>、丸山弘樹<sup>1)</sup>、成田一衛<sup>1)</sup>  
新潟大学大学院医歯学総合研究科内部環境医学講座(第二内科)<sup>1)</sup>、新潟大学医歯学総合病院集中治療部<sup>2)</sup>、新潟大学医歯学総合病院血液浄化療法部<sup>3)</sup>
27. 当院で手根管開放術を行った透析患者の背景の検討 9:45  
高市憲明<sup>1)</sup>、○野村和史<sup>1)</sup>、喜多島出<sup>2)</sup>、乳原善文<sup>1)</sup>  
虎の門病院腎センター<sup>1)</sup>、虎の門病院 整形外科<sup>2)</sup>

**IX. SAM 関連及びその他のアミロイドーシス (10:00~10:30)**

座長 樋口 京一

28. マウス老化アミロイドーシス関連タンパク質 apoA-II のアミロイド線維形成機構 10:00  
樋口京一<sup>1)</sup>、○澤下仁子<sup>1)</sup>、長谷川一浩<sup>2)</sup>、安原(堤)しのぶ<sup>2)</sup>、森政之<sup>1)</sup>、葛鳳霞<sup>1)</sup>、姚俊潔<sup>1)</sup>、内木宏延<sup>2)</sup>  
信州大学大学院医学研究科加齢生物学分野<sup>1)</sup>、福井大学医学部医学科病因病態医学講座 分子病理学領域<sup>2)</sup>
29. アミロイドーシス特有の病理像を認識するプローブの探索(2) 10:15  
工藤幸司<sup>1)</sup>、○藤川陽介<sup>2)</sup>、岡村信行<sup>2)</sup>、古本祥三<sup>1)</sup>、星井嘉信<sup>3)</sup>、石原得博<sup>3)</sup>、山田正仁<sup>4)</sup>、谷内一彦<sup>2)</sup>  
東北大学先進医工学研究機構・高度情報通信分野<sup>1)</sup>、東北大学大学院医学系研究科 医科学専攻・機能薬理学分野<sup>2)</sup>、山口大学医学部構造制御病態学講座(病理学第一講座)<sup>3)</sup>、金沢大学大学院脳老化・神経病態学(神経内科学)<sup>4)</sup>

10:30 終了挨拶 主任研究者 山田 正仁



アミロイドーシスの画期的診断・治療法に関する研究班 研究報告会

10:45 挨拶 主任研究者 池田修一

I. 脳、透析、SAM 関連、その他のアミロイドーシス (10:45~12:15)

座長 山田 正仁

脳アミロイドーシス

1. ハンチンチンによる神経細胞内凝集体生成機構の解明 10:45  
金子清俊<sup>1)</sup>、○八谷如美<sup>1)</sup>、小見和也<sup>2)</sup>  
東京医科大学医学部神経生理学講座<sup>1)</sup>、東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻<sup>2)</sup>

2. 抗酸化物質は強力に  $\alpha$ -シヌクレイン線維 (f $\alpha$ S) 形成を抑制し、既存の f $\alpha$ S を不安定化する 11:00  
山田正仁、○小野賢二郎<sup>おのけんじろう</sup>  
金沢大学大学院医学系研究科脳老化・神経病態学 (神経内科学)

3. 髄膜脳症で発症しステロイドが奏功した脳アミロイドアンギオパチーの 69 歳女性 11:15  
例  
○町田香津子<sup>まちだかづこ</sup>、下島吉雄、内藤康介、五野貴久、池田修一  
信州大学医学部内科学 (脳神経内科, リウマチ・膠原病内科)

透析アミロイドーシス

4. 血液透析患者血中 intermediate  $\beta_2$ -microglobulin 11:30  
—新たな病態解析のツールとしての重要性—  
○本宮善恢<sup>もとみやよしひろ</sup><sup>1)</sup>、宇治義則<sup>2)</sup>、安東由喜雄<sup>2)</sup>  
医療法人翠悠会診療所<sup>1)</sup>、熊本大学大学院医学薬学研究部病態情報解析学<sup>2)</sup>

SAM 関連アミロイドーシス

5. ApoA-II トランスジェニックマウス(ApoA2<sup>C</sup> Tg)の開発と老化アミロイドーシス 11:45  
○葛鳳霞<sup>かつほうか</sup>、姚俊潔、付笑影、郭占軍、張倍茹、嚴景民、澤下仁子、森政之、樋口京一  
信州大学大学院医学研究科加齢生物学分野

その他

6. アミロイドタンパク質オリゴマーに関する研究 12:00  
○亀谷富由樹<sup>かめたにふゆき</sup>  
財団法人東京都医学研究機構・東京都精神医学総合研究所

**12:15～13:15 昼 食**  
**アミロイドーシスの画期的診断・治療法に関する研究班 分担研究者**  
**会議**  
**(11階 鳳凰の間)**

**II. AA アミロイドーシス (13:15～15:00) 座長 山田 学**

7. チーターの AA アミロイドーシス 13:15  
○張 倍茹<sup>1)</sup>、付 笑影<sup>1)</sup>、巖 景民<sup>1)</sup>、葛 鳳霞<sup>1)</sup>、姚 俊潔<sup>1)</sup>、張 桓宇<sup>1)</sup>、  
澤下仁子<sup>1)</sup>、森 政之<sup>1)</sup>、宇根有美<sup>2)</sup>、亀谷 富由樹<sup>3)</sup>、樋口京一<sup>1)</sup>  
信州大学大学院医学研究科加齢生物学分野<sup>1)</sup>、麻布大学獣医学部獣医学科病理学研  
究室<sup>2)</sup>、東京都精神医学総合研究所分子神経生物学研究部門<sup>3)</sup>
8. チーターのアミロイド症の生前診断法に関する研究 13:30  
○宇根有美<sup>1)</sup>、藤野みゆき<sup>1)</sup>、付 笑影<sup>2)</sup>、樋口 京一<sup>2)</sup>  
麻布大学獣医学部獣医学科病理学研究室<sup>1)</sup>、  
信州大学医学研究科加齢生物学分野<sup>2)</sup>
9. 牛由来 AA アミロイドの子豚への投与試験 13:45  
○山田学<sup>1)</sup>、中村菊保<sup>1)</sup>、山本 佑<sup>1)</sup>、堀内雅之<sup>2)</sup>、古林与志安<sup>2)</sup>、松井高峯<sup>2)</sup>  
独) 動物衛生研究所<sup>1)</sup>、帯広畜産大学獣医学科家畜病理学教室<sup>2)</sup>
10. 牛由来 AA アミロイド投与による実験的ウサギ AA アミロイドーシス 14:00  
○堀内雅之<sup>1),2)</sup>、古林与志安<sup>1)</sup>、山田 学<sup>3)</sup>、松井高峯<sup>1)</sup>  
帯広畜産大学獣医学科家畜病理学教室<sup>1)</sup> 岐阜大学連合獣医学研究科<sup>2)</sup>、  
独立行政法人家畜衛生研究所<sup>3)</sup>
11. FITC 標識アミロイド線維および FITC 標識合成ペプチドの投与による実験的 AA 14:15  
アミロイドーシスの発症促進効果についての検討  
石原得博<sup>1)</sup>、○崔 丹<sup>1)</sup>、星井嘉信<sup>1)</sup>、河野裕夫<sup>1)</sup>、田中裕也<sup>2)</sup>、安武結香<sup>3)</sup>  
山口大学大学院医学系研究科情報解析医学系学域病理形態分野 (旧病理学第一講  
座)<sup>1)</sup>、山口大学医学部医学科4年生<sup>2)</sup>、同保健学科4年生<sup>3)</sup>
12. 関節リウマチによる反応性アミロイドーシスに対する生物学的製剤の治療効果の 14:30  
検討  
中野正明<sup>1)</sup>、○黒田 毅<sup>2)</sup>、下条文武<sup>2)</sup>  
新潟大学医学部保健学科<sup>1)</sup>、  
新潟大学大学院医歯学総合研究科腎・膠原病内科学分野<sup>2)</sup>
13. 本邦における家族性地中海熱 — 全国調査結果 (一次調査) — 14:45  
松田正之、土屋彩子、○矢崎正英、中村昭則、池田修一  
信州大学医学部内科学 (脳神経内科、リウマチ・膠原病内科)

Coffee Break 15:00~15:15

Ⅲ. AL アミロイドーシス (15:15~16:00) 座長 松田 正之

14. 胸部アミロイドーシスの新しい SPECT 検査用製剤-<sup>99m</sup>Tc-Aprotinin の合成 15:15  
松田博史、○今林悦子<sup>いまばやしえつこ</sup>、久慈一英  
埼玉医科大学病院核医学診療科
15. AL アミロイドーシスモデルマウス作成と、BJP 吸着療法の試み 15:30  
満屋裕明<sup>1)</sup>、○畑裕之<sup>はたけ ひろゆき</sup><sup>1)</sup>、奥野豊<sup>1)</sup>、西和彦<sup>2)</sup>、伊藤徳治<sup>2)</sup>、原田俊和<sup>2)</sup>  
熊本大学附属病院血液内科<sup>1)</sup>、熊本大学附属病院血液浄化部<sup>2)</sup>
16. 原発性 AL アミロイドーシスにおける化学療法の血液学的治療効果予測 15:45  
松田正之<sup>1)</sup>、○五野貴久<sup>ごのたかひさ</sup><sup>1)</sup>、下島恭弘<sup>1)</sup>、吉田拓弘<sup>1)</sup>、加藤修明<sup>1)</sup>、小池健一<sup>2)</sup>、  
中沢洋三<sup>2)</sup>、山田俊幸<sup>3)</sup>、池田修一<sup>1)</sup>  
信州大学医学部内科学（脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）<sup>1)</sup>、  
信州大学医学部小児科<sup>2)</sup>、自治医科大学臨床検査<sup>3)</sup>

Ⅲ. FAP (16:00~16:45) 座長 祖父江 元

17. 網膜光凝固術による家族性アミロイドポリニューロパチーの眼症状進行抑制の可能性 16:00  
○川路隆博<sup>かわじたかひろ</sup><sup>1)</sup>、安東えい子<sup>1)</sup>、谷原秀信<sup>1)</sup>、安東由喜雄<sup>2)</sup>  
熊本大学大学院医学薬学研究部視機能病態学<sup>1)</sup>、熊本大学大学院医学薬学研究部  
病態情報解析学<sup>2)</sup>
18. 高齢発症 transthyretin-related FAP (Ala97Gly, Val94Gly および Val30Met) の臨床病理学的検討 16:15  
祖父江元<sup>1)</sup>、○小池春樹<sup>こいけはるき</sup><sup>1)</sup>、川頭祐一<sup>1)</sup>、沖祐美子<sup>1)</sup>、飯島正博<sup>1)</sup>、服部直樹<sup>1)</sup>、  
山本正彦<sup>1)</sup>、安田武司<sup>2)</sup>、向井栄一郎<sup>3)</sup>、中里雅光<sup>4)</sup>、安東由喜雄<sup>5)</sup>  
名古屋大学神経内科<sup>1)</sup>、トヨタ記念病院神経内科<sup>2)</sup>、国立病院機構名古屋医療センター神経内科<sup>3)</sup>、  
宮崎大学医学部第三内科<sup>4)</sup>、熊本大学医学部病態情報解析分野<sup>5)</sup>
19. 家族性アミロイドポリニューロパチー (FAP) 患者に対するジフルニサルを用いた新たな薬物療法の開発 16:30  
池田修一<sup>1)</sup>、○関島良樹<sup>せきしまよしき</sup><sup>1)</sup>\*、東城加奈<sup>1)</sup>  
信州大学医学部内科学（脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）<sup>1)</sup>、信州大学医学部  
遺伝子診療部\*

16:45 終了挨拶 主任研究者 池田 修一

## [IV] 研究成果の刊行に関する一覧表